「わすれられないおくりもの」

南千住第二中学校　三年　津久井　彩野

私は今日、この本に出逢えてよかった、という気持ちをお伝えしたくてこのお手紙を書いています。

実は私は、十月の初めに大好きな父を亡くし、毎日泣いてばかりいました。そんな時に、保育園のときの園長先生に「わすれられないおくりもの」をすすめられて読んでみたのです。このお話は、みんなが大好きな主人公のアナグマが亡くなり、悲しみに暮れていた森のみんなが、アナグマからもらった知恵やくふうによって今の自分が居ることに気付き、次第に笑顔を取り戻し、互いを助け合い生きていくようになる、暖かいストーリーでした。

父はこのお話に出てくる、アナグマのような人で、いつも笑顔を絶やさず暖かな人でした。「大丈夫だよ。」が口ぐせだった父。私はそんな父が誇りで、今でも大好きです。

使命という字は、命を使うと書き成り立ちます。父が命を使い、与え続けた愛や希望、生涯歌手であり続けた父の歌声と「夢はあきらめなければ必ずかなうよ。」というメッセージを、今度は私が伝える番が来ました。それは容易いことではないと思いますが、時間をかけてでも果たすことが出来ればいいな、と思いま

す。

最後になりましたが、この手紙を書くきっかけをくださった方々と、最後まで読んで下さった方に感謝の言葉を伝えたいです。

そして父にも一言伝えたい言葉があります。お父さん。私は今日も幸せです。お父さんの歌声は、今も私達に届いています、と。